

2S-Fp03 アカデミア研究者を目指す

○井上 謙吾
(宮崎大・IR推進機構)
kinoue@cc.miyazaki-u.ac.jp

修士・博士課程の学生及び博士号取得者のうち、アカデミア研究者を目指して研究活動に従事している者の割合は少なくないと思われる。博士課程在籍中、あるいは、博士号取得直後にアカデミアの任期なしポジションに就く例もあるが現代では珍しいケースであり、博士号を有する若手研究者の多くは、学位取得後、任期付ポジションで研究活動を続け、インパクトの大きい研究成果と次の(アカデミア)ポジションに就くことを目指して研鑽を積む場合が多いだろう。演者も、アカデミア研究者を目指して苦闘している研究者の一人である。博士課程修了後、2年半の海外留学を経て、現在は文部科学省によるテニュアトラック普及・定着事業の下、「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」のテニュアトラック教員として任期付助教という立場で研究活動に従事している。日本でテニュアトラック普及・定着事業が開始されたのは平成18年度からであり、大学教員のポジションとしてはそれほど一般的ではない。演者の場合、研究者としてはポストク上りのひよっこであったにも関わらず、PI (Principal Investigator) として研究を遂行するために十分なスペースと環境が与えられ、研究活動を行うことができています。本講演では、アカデミア研究者を目指している演者のこれまでのキャリアやテニュアトラック普及・定着事業とその下での研究環境や仕事内容の詳細などについて紹介したい。テニュアトラック教員という比較的珍しい立場の人間を例に研究者のキャリアや若手研究者育成について考えるうえでの参考になれば幸いです。

My academic job hunt

○Kengo Inoue
(IRO, Univ. of Miyazaki)

Key words Tenure-track

2S-Fp04 「信州でテニュアトラック研究生活」を振り返って

○新井 亮一
(信州大・繊維・応生系)
rarai@shinshu-u.ac.jp

文部科学省科学技術振興調整費の「若手研究者の自立的環境整備促進プログラム」の平成19年度採択課題「信州大学ファイバーナノテック国際若手研究者育成拠点」において、テニュアトラック助教として採用され、平成19年12月より平成24年3月まで、信州大学でテニュアトラック研究生活を送りました。このプログラムは、「若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を狙う研究機関において、テニュアトラック制(若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組みをいう)に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図る」という趣旨の事業です。現在では、文部科学省科学技術システム改革事業の「テニュアトラック普及・定着事業」に引き継がれています。

さて、私が、平成19年12月に信州大学にテニュアトラック教員として着任して、1年余りが過ぎたころ、縁あって、生物工学会誌(第87巻(2009)1号)のキャリアパス「生物工学研究者の進む道」に、拙文「信州でテニュアトラック研究生活」を掲載する機会を頂きました。そこでは、テニュアトラック制度についてや、応募のきっかけ、信州での研究・生活環境について、さらには、日本版テニュアトラック制度の今後についての私見などを記しました。そして、最後に「この恵まれた環境を活かして一生懸命に頑張り、よい研究成果をあげていきたい」という決意表明で締めくくりましたが、それが十分に達成できたかどうかはいささか不安ですが、テニュア審査ののちに平成24年4月よりテニュア(任期なし)教員として採用され、引き続き信州大学繊維学部勤務しております。

今回、また縁がありまして、シンポジウム「未来の生物工学を担う若手研究者のキャリアを考える」での講演の機会を頂きましたので、改めて、この「信州でテニュアトラック研究生活」を振り返ってみたいと思います。例えば、研究室を新たに立ち上げる時の苦労や経験、学生指導や授業などの教育について、また、キャリアプランやワークライフバランスについてなど、私なりにお話し致したいと思います。生物工学会の若手の皆さんがキャリアを考える上で少しでもご参考になれば幸いです。

My experience of tenure-track research life at Shinshu University

○Ryoichi Arai
(Div. Appl. Biol., Fac. Textile Sci. Technol., Shinshu Univ.)

Key words tenure-track, research life, career plan, young scientist